

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成26年4月17日(2014.4.17)

【公開番号】特開2012-194280(P2012-194280A)

【公開日】平成24年10月11日(2012.10.11)

【年通号数】公開・登録公報2012-041

【出願番号】特願2011-57060(P2011-57060)

【国際特許分類】

G 02 B 15/20 (2006.01)

G 02 B 13/18 (2006.01)

【F I】

G 02 B 15/20

G 02 B 13/18

【手続補正書】

【提出日】平成26年2月28日(2014.2.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

物体側から像側へ順に配置された正の屈折力を有する第1レンズ群と負の屈折力を有する第2レンズ群と正の屈折力を有する第3レンズ群とを有し、

前記第2レンズ群が、物体側から像側へ順に配置された第1負レンズと第2負レンズと正レンズの3枚のレンズにより構成され、

少なくとも前記正レンズの物体側の面に光軸から外周に向かうに従って漸次曲率が小さくなる形状の非球面が形成され、

以下の条件式(1)及び条件式(2)を満足する

ズームレンズ。

$$(1) 0.8 < 10 \times (R_{22r} - R_{23f}) / (R_{22r} + R_{23f}) < 1.8$$

$$(2) 3.0 < 100 \times \{D(2, 23) / TH2\} < 7.0$$

但し、

R_{22r} ：第2レンズ群の第2負レンズにおける像側の面の近軸曲率半径

R_{23f} ：第2レンズ群の正レンズにおける物体側の面の近軸曲率半径

$D(2, 23)$ ：第2レンズ群の第2負レンズと正レンズの間に存在する光軸上の空気間隔

$TH2$ ：第2レンズ群の最も物体側の面から最も像側の面までの光軸上の厚みとする。

【請求項2】

以下の条件式(3)を満足する

請求項1に記載のズームレンズ。

$$(3) 1.6 < f(2, 3) / |f_2| < 2.5$$

但し、

$f(2, 3)$ ：第2レンズ群の正レンズの焦点距離

f_2 ：第2レンズ群の焦点距離

とする。

【請求項3】

以下の条件式(4)を満足する

請求項1又は請求項2に記載のズームレンズ。

$$(4) 1.1 < \{ R_{23}f / (n_{23} - 1) \} / |f_2| < 1.65$$

但し、

n_{23} ：第2レンズ群の正レンズの屈折率

f_2 ：第2レンズ群の焦点距離

とする。

【請求項4】

以下の条件式(5)及び条件式(6)を満足する

請求項1乃至請求項3の何れかに記載のズームレンズ。

$$(5) 1.0 < |f_2| / f_W < 1.5$$

$$(6) 0.05 < |f_2| / f_T < 0.15$$

但し、

f_2 ：第2レンズ群の焦点距離

f_W ：広角端における全光学系の焦点距離

f_T ：望遠端における全光学系の焦点距離

とする。

【請求項5】

前記第2負レンズにおける像側の面の外周部と前記正レンズにおける物体側の面の外周部とが接触された

請求項1乃至請求項4の何れかに記載のズームレンズ。

【請求項6】

前記正レンズにおける物体側の面の外周部に光軸に垂直な平面が形成され、

前記正レンズの平面に前記第2負レンズにおける像側の面の外周部が接触された

請求項5に記載のズームレンズ。

【請求項7】

前記正レンズがガラス材料によって金型成形により形成された

請求項1乃至請求項6の何れかに記載のズームレンズ。

【請求項8】

広角端から望遠端へのズーミングの際に、前記第1レンズ群が前記第2レンズ群から離れるように物体側へ移動し、前記第3レンズ群が前記第2レンズ群に近付くように物体側へ移動する

請求項1乃至請求項7の何れかに記載のズームレンズ。

【請求項9】

ズームレンズと前記ズームレンズによって形成された光学像を電気的信号に変換する撮像素子とを備え、

前記ズームレンズは、

物体側から像側へ順に配置された正の屈折力を有する第1レンズ群と負の屈折力を有する第2レンズ群と正の屈折力を有する第3レンズ群とを有し、

前記第2レンズ群が、物体側から像側へ順に配置された第1負レンズと第2負レンズと正レンズの3枚のレンズにより構成され、

少なくとも前記正レンズの物体側の面に光軸から外周に向かうに従って漸次曲率が小さくなる形状の非球面が形成され、

以下の条件式(1)及び条件式(2)を満足する

撮像装置。

$$(1) 0.8 < 100 \times (R_{22}r - R_{23}f) / (R_{22}r + R_{23}f) < 1.8$$

$$(2) 3.0 < 100 \times \{ D(2, 23) / TH2 \} < 7.0$$

但し、

$R_{22}r$ ：第2レンズ群の第2負レンズにおける像側の面の近軸曲率半径

$R_{23}f$ ：第2レンズ群の正レンズにおける物体側の面の近軸曲率半径

D (2 、 2 3) : 第 2 レンズ群の第 2 負レンズと正レンズの間に存在する光軸上の空気間隔

TH2 : 第 2 レンズ群の最も物体側の面から最も像側の面までの光軸上の厚みとする。